

同窓会報

第二十号

編集 千葉北高等学校
発行 同窓会事務局

印刷 (有)宮坂印刷



で野生動物 保護ボランティア



八期生 石和田 研二

横浜動物園・ズーラシアをみなさんご存知でしょうか。身近にある千葉市運動公園も広々とした空間で動物とひとの交流が図れるようになっていますが、ズーラシアは規模的にもかなり大きく、また、珍獣を飼育していることでも有名です。

その珍獣の一つに「オカピ」がいます。そしてこの「オカピ」を飼育しているのが本校八期生の石和田 研二さんです。石和田さんから事務局あてにお便りを頂きました(日十三年一月)のでご紹介いたします。

『開園して間もなく二年になろうとしています。お陰様でオカピもすっかり市民権を得たよう、担当者として嬉しい限りです。多くの市民、その他の方々に実物のオカピを見ていただけ、これからも、もっともっと親し

んでもらえたらと思っています。幸いなことに、昨年十一月二十一日に元気な雌の赤ちゃんが誕生し、その後も順調に育っています。しかし、残念なことには、オカピの生息しているコンゴ民主共和国の政情は、相変わらず不安定な様です。今年に入り、大統領が暗殺され、息子が大統領になりましたが、このまま落ち着いてくれればと、世界中のオカピ関係者は願っています。アメリカ・フロリダ州にありませ、ホワイトオーク・コンサベーション・センターという施設が中心になって、現地エプールの設立されたオカピの保護・繁殖施設の運営も、大変な様です。各国のオカピ飼育園は、当園を含め毎年このオカピ基金に寄付金を出しています。この基金によって現地の施設は運営され



▲ 現地保護施設で働く人達

っていました。このポストカードセットの売上金をホワイトオーク・コンサベーション・センターを通し、送料を差し引いた分を寄付したいと考えております。

この基金は、現地の保護施設の運営の他、密猟者を取り締まりするレンジャーの給与、原住民に対する教育等にも使われます。現在、より重要視されているのが、この原住民に対する正しい教育で、いくら私達が野生動物を守ろうと、叫んでみても、現地の人達の協力が得られなければ、野生動物の保護等はありません。ぜひ皆様方のご協力をお願いします。この活動は昨年二月より始め、国内の知り合いのいる動物園に協力してもらい、昨年夏に一度一万ドルを既に送金しています。秋にフロリダでの会議に出席する際、ホワイトオークにも寄り、現地保護施設の園長夫妻等から大変感謝されました。個人的な寄付はこのオカピ基金始まって以来のことでした。

ており、私も微力ながら何か協力出来なかと、かねてから願っていました。そこで昨年、当園のオカピのポストカードを複製しました。写真撮影から全

てを自分で企画し、作ったもので、北高時代より始めた写真ですが、なかなかの評判で、海外の友人も冗談で、「飼育係より写真家になった方が良い」と言

現在、よこはま動物園の上層部の理解と協力を得、園内の売店で十六種あるこのポストカードを四種類一セットとし四パターンを三〇〇円以上寄付してくださった方々に差し上げています。こちらの方も評判は上々で、

同窓会総会報告

平成13年度
平成14年度

事務局長 渡邊 康裕

数カ月内には五〇〇〇ドル位は寄付が出来そうです。
千葉北高校ゆかりの皆さんには、十六枚セットで一二〇〇円をお願いしたいと存じます。代金は現金書留か銀行振込でお願い致します。お手数をおかけ致しますが、何とぞ協力くださいますようお願い申し上げます。』
事務局としても石和田君の活動を支援したいと思えます。

照会は・・・

045-959-1354 (直通)

よこはま動物園ズーラシア

〈送り先〉〒232-0008

横浜市南区庚台25 石和田 研二

〈振込先〉

みずほ銀行千葉支店 (280)

普通預金口座 987952

平成十三年 活動報告

平成十三年活動報告では、「基本方針」の

- (1)同窓会・長期活動計画の樹立
- (2)母校への側面的支援を図る

平成十四年五月二六日(日)千葉北高校セミナーハウス「北友館」において、第二五回定期総会が行なわれ、活動報告・会計報告・役員改選が行なわれ、すべての議題が議決されました。

〔三〇周年記念事業をみつめて〕

- (3)外郭団体との協調を図る
- (1)同窓会財政見直しとムダのない活動の展開
- (2)同窓会報の内容充実と広報のあり方の検討
- (3)OB会との連携と事務の円滑な運営
- (4)同窓生との交流親睦



を「十三年度重点目標」としました。

五月二〇日(日)は役員会(総会準備等)を八千代市内で、五月二七日(日)は第二四回定期総会を北友館で行ないました。九月二二日(土)には役員会、一〇月二〇日(土)第二回役員会、十一月九日(金)第三回役員会を行ないました。十一月一〇日(土)幹事会・OB会連絡協議会を千葉市「ホテルサンガーデン千葉」にて開催・名誉顧問林先生の講演等三月六日(水)北高校体育館において第二五期生入会式を執り行いました。

平成14年度

幹事会 OB会 連絡協議会講演

演題「オカピとともに」

8期生 石和田研二さん

日時 平成14年11月30日(土) 17:00~
場所 千葉市中央区中央1丁目
ホテル サンガーデン千葉
TEL 043-224-1131

入場は自由です

平成十四年度 活動計画

平成十四年度活動計画としては、「基本方針」「重点目標」は十三年度と同じです。

そして五月二六日(日)第二五回定期総会が北友館で行なわれました。また、十一月三〇日(土)幹事会・OB会連絡協議会(「ホテルサンガーデン千葉」にて、八期生石和田さんの講演・諸先生方との交流等)、三月六日(木)第二六期生入会式を千葉北高校で予定しています。

人と かかわる力

教 頭 高 仲 輝 夫

学校では、たくさんの人間関係の中で過ごしています。「人とかかわること」で、多く

平成13年度決算報告書(2001.7.1~2002.3.31)

収入の部 一般会計		同窓会特別活動基金	
項 目	収入済額	項 目	収 入
会 費	1,422,000	繰 越 金	4,948,507
繰 越 金	0	雑 収 入	2,968
雑 収 入	217	(預貯金利息)	
(預貯金利息)		計	4,951,475
計	1,422,217		

合 計 6,373,692 前年度比で-22,715円

支出の部 一般会計		同窓会特別活動基金	
項 目	支 出	支出なし	
事 務 運 営 費	17,909		
事 業 費	428,108		
慶 弔 費	123,000		
同窓会特別活動費	0		
同 期 会 費	0		
予 備 費	0		
計	569,017		

差引残額 5,804,675
うち一般会計残額 853,200
特別会計残額 4,951,475

平成14年度予算書(2002.4.1~2003.3.31)

収入の部 一般会計		同窓会特別活動基金	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
会 費	1,440,000	繰 越 金	4,951,475
繰 越 金	853,200	雑 収 入	3,000
雑 収 入	400	(預貯金利息)	
(預貯金利息)		計	4,954,475
計	2,293,600		

合 計 7,248,075 前年度比で+874,383円

支出の部 一般会計		同窓会特別活動基金支出	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
事 務 運 営 費	605,000	特別活動事務運営費	150,000
事 業 費	1,537,000	特別活動事業費	4,804,475
慶 弔 費	110,000	計	4,954,475
同窓会特別活動費	0		
同 期 会 費	5,000		
予 備 費	36,600		
計	2,293,600		

差引残額 0

のことを学び、成長していきま
す。
今の子どもや若者は、「人と
かかわる力」について、問題を
かかえています。言い換えます
と、「人とうまくかかわれない」
「かかわり方を知らない」「か
かわる事を嫌がる」といった問
題が増えてきています。「人と
かかわる力」が低下してきてい
ることを感じます。

この原因については、「家族
の人数が少なくなったから」「地
域とのつながりが薄れてきたか
ら」等の指摘があります。
しかし、大事なことは、私達
大人が人とかかわり方を子ど
も達に教えてきたでしょうか。
「あいさつ」「相手を認める」
「自己主張」「仲直り」「世話」
などの「人とかかわり方」を
幼い時から教えられていないと、
「人とかかわる力」の基礎、基
本が身につきません。

各教科にも基礎・基本がある
ように学校生活にも基礎・基本
があります。何を今さら小学生
でもあるまいし、と反論がある
方もいらっしゃいますが、「あいさつ」
「身だしなみ」「時間を守る」
等は、自分の能力や持ち味を伸
ばしたり、他の人たちとのかか
わりをよくするために大切な事
です。
四月に赴任し、さわやかな挨拶
をしてくれた生徒、学校を案
内してくれた生徒外部の人達か
らも、「北高の生徒は素晴らし
いですね」と聞き、うれしく思
います。人とかかわること、
人とのネットワークがさらに広
げられたら素敵です。

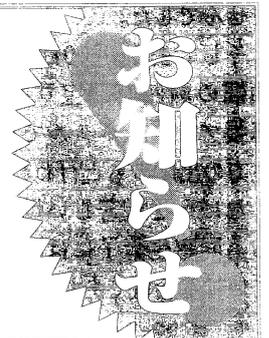
「名簿作成」の
往復ハガキに

ご注意下さい

平成14年9月ごろ、同窓会々員のみなさんのところに「人事新報社」から同窓名鑑作成の名目で往復ハガキが郵送されたかと思われませんが、同窓会及び千葉北高校とはいっさい関係があ

りませんのでご承知頂きますようご連絡いたします。

なお、同窓会発行の会員名簿は平成15年に再編集する予定ですのでご協力をお願いします。



学校通信だより

二期制の

開始について

平成十四年度より、完全学校週五日制の実施に伴い、毎週土曜日が休業日となり、さらに平成十五年度からは新教育課程が実施されます。これらは「新世紀の学校教育の在り方」に関わって盛んに報道等を通じて紹介されているところであります。

これからの学校は、学校としての「顔」(≡特徴)がはっきりして、生徒が、学習内容を自分の歯(≡意欲関心)でよく噛み(≡理解)、よく消化・吸収(≡基礎力の定着≡教科書の基本的事項の理解)し、バランスのよい栄養(≡本当の実力)をとり、健全な発育(≡応用力の発展≡いざという時の対応力)及び心と頭と体のバランス力)を目指せるようにすることが大切であると思います。

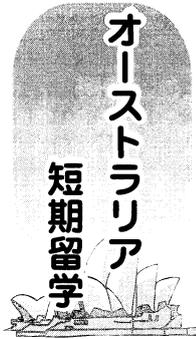
そこで、本校では授業時間を確保してよくわかる授業を目指し、行事を精選して、少しでも精神的・物理的ゆとりをもった特色ある教育活動を実施できるようにするため、平成十四年度より「二期制」を実施することになりました。(前期：四月一日〜九月三十日

後期：十月一日〜翌年三月三十一日)

がんばる！

北高生達

ソフトボール部が中部地区大会にて優勝し、関東大会へは山岳部(ワンゲル)が団体で、陸上部で野老君が四〇〇mハードルで出場できることになりました。弓道部は、白本君が関東大会ともいえる神宮大会に出場することになりました。さらに、山岳部(ワンゲル)は、国体予選で県で団体二位、個人では、大矢君が大会新記録で優勝という画期的な成績を残しました。



オーストラリア 短期留学

今年度も千葉北高第六回オーストラリア短期留学が、七月十六日から七月三十一日にわたる十五泊十六日の日程で実施されることになりました。本校では平成五年度から国際理解教育への取り組みが開始され、短期留学については今回で第六回を迎えることになりました。

訪問先は本年で四年目となるセントパトリックスカレッジで、

二十数年前、県高校生海外派遣に参加し初めて訪れた外国である香港で自分が生活するとは予想もしていませんでしたが、仕事の関係で九十八年から一年間香港へ、九十九年から一年間北京へ駐在してまいりました。

今や中国の一部として最も発展している香港と、中国の政治の中枢部である北京の二ヶ所で生活してみても直接肌で感じた事を述べさせて頂きます。

香港は皆さん良くご存知の様に英国植民地として発展していききましたが、今や中国側の経済開発地区である深圳(シンセン)もその影響でいまや香港同様高層ビ

参加生徒は一週間のホームステイを行ないながら、英語の特別授業や現地校の授業、フィールドトリップ(日帰りの遠足)などに参加します。

今年の参加生徒は一年生十二名、二年生八名の計二〇名です。ほぼ毎日のように行なわれる事前研修では、英会話や異文化理解、さらに現地でのパーティー準備など一所懸命に行なっています。

中国滞在記



ルが立ち並びその活気はまさに自由貿易との窓口といった感があります。日本を含む多くの外国企業、特にメーカーが香港に事務所を持ち、安い労働力を求めて深圳側(広東省)に進出していきます。工場に勤める数百〜数千人の労働者は大概十代の地方出身者で、賃金は日本円にして一ヶ月おおよそ一万円程ですが、皆寮に住み、旧正月休みになると何時間・何日もかけて列車で実家に帰ります。そのバイタリ

事務局

小黒 昇

一方、北京という中国政治の中心地で生活していて感じた事

を今風に解説するなら「もし中国が一万人の村だったら、一人の特権階級がその他大勢を支配している」とでも言えます。万里の長城や天安門広場に立つと、広大な中国で何億もの人民を統率するには余程強権がなければ、どうしようもないと実感できます。

巨大な中国のほんの一部しか見ておりませんが、それでも実感として言える事は、中国は日本人のサービスマン・マナーと言った概念や常識とは全く別世界のようです。今後WTO加盟が実現し、オリンピックの開催地として益々脚光を浴びる中国は、多くの問題を含んでいても、加速的に発展して行く事は間違いないでしょう。

編集後記

身の回りの秋景色を見つつ、会報の発刊作業を行ってきました。

前回発刊より遅れること二年。小川事務局次長が親身に努力してきた会報編集に対して、思うように原稿が集まらず(かくゆう私が一番の怠け者(〆))とうとうこの時期になってしまいました。協力していただいた各方面には誠に申し訳ありませんでした。

そして去る8月10日(土)には関本名誉顧問の勲四等瑞宝章叙勲記念祝賀会が、幕張プリンスホテルで多数の懐かしい先生方の出席のもと行われました。

なにかと重苦しい世の中ですがこれからも同窓生諸子には明るい話題を提供していける会報でありたいと考えています。

事務局長 渡邊